

第 12 回国際科学技術関係大臣会合について “The 12th Science and technology Ministers’ Roundtable”

1. 日 時：2015 年 10 月 4 日（日） 16:40～18:50
2. 場 所：国立京都国際会館（京都市左京区宝ヶ池） Room A
3. 参加者：世界 26 ヶ国の科学技術大臣等が参加（日本を含む：別紙参照）
4. テーマ：インクルーシブ・イノベーション戦略-科学技術イノベーションにおける国際協働の役割-
Strategies for Inclusive Innovation-The Role of International Cooperation in Science, Technology and Innovation-

<論点>

- ① 各国におけるインクルーシブ・イノベーションを促進する上において、科学技術イノベーションを活用した成功事例や、これを実現するための政策的支援の現状如何。
- ② 科学技術を主軸としたインクルーシブ・イノベーションを推進するために、各国はどのように国際協働・協調していくべきか。

5. 結果概要：

(1) 山口科学技術政策担当大臣が会議の議長を務めた。冒頭、山口大臣から、

- 日本の科学技術イノベーション政策を推進する上で基本となる「科学技術基本計画」について、現在、2016 年度から 2020 年度までの 5 力年の計画となる「第 5 期科学技術基本計画」の策定を進めていること。
- 第 5 期科学技術基本計画の始動に合わせて、本年 6 月に「科学技術イノベーション総合戦略 2015」を策定し、2016 年度予算における重点を置くべき政策分野を示したこと。について言及があった。

また、本会合のテーマであるインクルーシブ・イノベーション戦略については、世界の国々が抱える環境汚染や資源枯渇などの課題解決にあたって、課題を社会全体で包摂し、持続可能な経済活動に巻き込むイノベーションの展開が必要であり、そのための科学技術イノベーションの役割や各国のニーズに応じた国際協働の重要性について論点に沿って情報交換・意見交換を行いたい旨の発言があった。

(2) 次に、森本内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）より、インクルーシブ・イノベーションの考え方や、科学技術を活用した社会実装の事例紹介に加えて、我が国の科学技術イノベーション政策（「第 5 期科学技術基本計画」、「科学技術イノベーション総合戦略 2015」の策定等）の動向について説明があり、これらの政策を通じて、グローバル社会において我が国が科学技術イノベーションの推進の強化を目指している旨説明があった。

(3) 続いて、議論をリードしてもらうため、ジョン・ホルドレン米国大統領補佐官（科学技術担当）より、米国の取組等について説明があった。

インクルーシブ・イノベーションは、各コミュニティのメンバーそのものがイノベーターとして活躍することが重要であること。そのため、米国では、政策公募のための「Challenge.gov」やシチズンサイエンス^(注1)に関する取り組みなど、科学やイノベーションの現場に市民自身が参加する機会を設けている旨の説明があった。さらに、近年、低価格のセンサ類やスマートフォンなどのソーシャルメディアの普及に伴い、オープンイノベーションを基にした新しいメーカームーブメントが興っている。情報ネットワークの発展に伴い、世界中の人々が情報を共有しあうイノベーションネットワークが実現しつつある潮流は、各国における課題解決の糸口になるだろうと提案した。

(注1)「シチズンサイエンス（市民科学）」： 本来、天文学などの分野におけるアマチュア専門家らによる学術活動をさしていたが、近年の情報技術の進歩に伴い、デジタルツールやオンラインネットワークを通じて専門家に加えて一般市民も参加し、得られた情報を共有しながら研究を推進するような取組が行われている。

(4) その後、出席者間で意見交換が行われた。具体的には、

① インクルーシブ・イノベーションの推進については、各国ともその必要性、重要性について同様の認識を持っていることが確認でき、また、社会的課題の解決においては、コミュニティ発の事業展開を通じた取組が推進されていることが確認された。

② 各国とも経済的な格差拡大などの課題を抱えており、その解決に向けてインクルーシブ・イノベーションの観点を取り入れたアプローチは有効であること、インクルーシブ・イノベーションを推進する上では、教育が重要であることについて指摘があった。

③ インクルーシブ・イノベーションの促進において、スマートフォンなどのソーシャルメ

ディアの普及は、知識・情報伝達における草の根的活動を推進しており、各国のイノベーション促進に寄与していることが示唆された。

- ④ 各国より、インクルーシブ・イノベーション推進に係る施策や事例が紹介されたが、教育、水資源、自然災害、医療などの社会的課題は国によって事情が異なり、国際協働・協力については、二国間或いは多国間の枠組みなど様々な協働・協力が必要であることについて、共通認識が得られた。

(5) 最後に山口大臣から、参加各国に対して謝意が伝えられるとともに、本会合を通じて、インクルーシブ・イノベーションにおける科学技術イノベーションの役割やその国際協働の重要性について認識が深まり、今後、一カ国だけでは解決困難な地球規模の課題に向けて、参加各国で連携等が促進されることを期待する旨の発言があった。

6. 二国間会談

山口大臣は、本大臣会合に出席した以下の大臣等と二国間会談を行った。

- タネフ教育科学大臣（ブルガリア）
- カストロ国家評議会科学顧問（キューバ）
- マンドン国民教育・高等教育・研究大臣付高等教育・研究担当大臣（フランス）
- プリサカール国家科学研究イノベーション省局長（ルーマニア）

第12回国際科学技術関係大臣会合出席者
2015年10月4日(日) 16:40-18:50

	国名	氏名	役職
1	ブルガリア	トドル・タネフ	教育科学大臣
2	ブルキナファソ	ジャン=ノエル・ポダ	科学研究イノベーション大臣
3	カンボジア	ハン・チュオンナロン	教育・青年・スポーツ大臣
4	キューバ	フィデル・カストロ,ディアス・バラルト	国家評議会科学顧問
5	ドミニカ共和国	プラシド・ゴメス・ラミレス	科学技術副大臣
6	フィンランド	ペッカ・ソイニ	フィンランド技術庁理事長
7	フランス	ティエリー・マンドン	国民教育・高等教育・研究大臣付高等教育・研究担当大臣
8	ドイツ	ジョージ・シュッテ	教育研究省事務次官
9	ハンガリー	ヨーゼフ・パーリンカーシュ	国家研究開発イノベーション局長
10	イラン	モハンマド・ファルハーディ	科学研究技術大臣
11	日本	山口 俊一	科学技術政策担当大臣
12	クウェート	バデル・アルエイッサ	教育大臣兼高等教育大臣
13	レソト	ホツォ リザツィ	通信・科学・技術大臣
14	マレーシア	ダトゥク・マディアス・タンガウ	科学技術イノベーション大臣
15	メキシコ	ルイス・トレブランカ	国家科学技術審議会副長官
16	ルーマニア	トゥドール・プリサカール	国家科学研究イノベーション省局長
17	シンガポール	リム・チュアンポー	科学技術研究開発庁(A*STAR)長官
18	南アフリカ	グレイス・ナレディ・パンドール	科学技術大臣
19	スウェーデン	ヘレーナ・ヘルマルク・クヌートソン	高等教育研究大臣
20	タイ	ピチェット・ドゥロンジカヴェロ	科学技術大臣
21	チュニジア	シヘブ ブデン	高等教育・科学研究大臣
22	トルコ	アーメド・アリフ・エルギン	トルコ科学技術研究会議長

23	トルクメニスタン	エリアソフ・マメットベルディ	内閣府科学技術部部長
24	英国	マーク・ウォルポート	英国政府主席科学顧問
25	米国	ジョン・ホルドレン	大統領補佐官（科学技術担当）
26	ベトナム	トラン・クオク・カン	科学技術副大臣

第 12 回国際科学技術関係大臣会合の様子



議長を務める山口大臣



リードスピーチ（日本、米国）



意見交換の様子